



楽しく保育にかかわりませんか?



生きる力を育む保育を目指して

なぜ毎日食べるのか? 進化生物学から見た 食育の重要性



東京大学名誉教授
真鍋 昇教授

子どもさんたちには野菜嫌いが多いですね。何故でしょうか?進化生物学的にその謎を説明します。なぜ毎日食べ続けたいいけないのでしょうか?細胞生物学的にその理由を解説します。最先端の食科学のエッセンスをとりまとめた本講義を受講し、食育のパラダイムシフト(それまでの常識が180度変わる)を経験して、毎日楽しく食べて元気溌訖な子どもさんたちを育みましょう。

プロフィール

日本学術会議会員、東京大学名誉教授、家畜改良センター理事、農林水産省食料・農業・農村政策審議会委員、内閣府食品安全委員会専門委員、文部科学省科学技術政策研究所研究員、大阪国際大学学長補佐教授

子どもそして、私も! 楽しんで自己肯定感を 育んでみませんか?

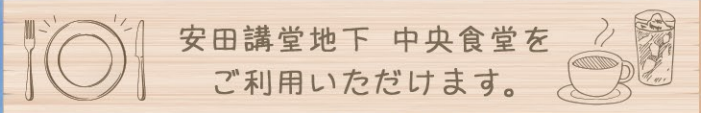


保育環境アドバイザー
井上 さく子先生

「ほっとする実家のような保育園」を目指して活動しています。保育園の6年間は、人生全ての基盤となるとも大事な時期です。ここで「人として生きる力を育むための援助」という貴重で重大な、未来の社会全体を支える役目を、保育園を支える私たちは担っています。子どもたちは商品ではありません。21世紀の子どもたちが願うような保育園を作り上げて行きませんか。

プロフィール

保育環境アドバイザー。岩手県遠野市生まれ。元東京都目黒区立ひもんや保育園園長。38年間、新任保育士から地域の主要保育園園長まで職務を歴任。現在も「子どもの代弁者」として、研修会や講演会などを多数開催。『大人都合を押し付けない、子ども主体の保育』を提唱し、自己肯定感を育む21世紀型の保育を実践し続けている。また、遠野あつむのペンネームで、詩作、朗読詩、イラストレーターとしても活躍中。〈著書〉『ぜんぶ子どもが教えてくれる 探しながら自分を生きる— さく子の幼児保育』(サンパティック・カフェ) ほか多数



ご挨拶

一般社団法人 全国保育連盟

「全てが子どものために」を常に念頭において保育環境の向上を目指して活動を続けていきます。この度の研修会は子どもの「生きる力を育む」という観点から、「進化生物学から見た食育」と「子どもたちの願いをかなえる保育園」をテーマに講演をいただきます。ご参加を心よりお待ちしております。開催にあたり多くの方々にご尽力をいただきましたことを感謝申し上げます。

開催日時: 2019年9月7日(土) 14:00~17:00

開催場所: 東京大学安田講堂

参加料: 2,000円(税込)

お申込み方法: ホームページ応募フォーム

<http://zennhoren.com/>

FAX(裏面お申込み用紙をご返送ください)

お申込み期限: 2019年8月31日(土)

お問い合わせ先: 一般社団法人 全国保育連盟 事務局直通

☎072-657-7852

✉zennhoren@zennho-ren.com



東大正門からお入りください。(約200m)



主催: 一般社団法人 全国保育連盟 〒108-0075 東京都港区港南1丁目2番70 品川シーズンテラス5F

後援: JFSラボ株式会社 マイナビ保育士 マイナビ幼児教育

協賛: 日田天領水 株式会社ダイケミ 株式会社カワタキコーポレーション アルタン株式会社

提言

人口減少により、日本の国力は衰退の一途をたどる。

国として自立し続ける唯一の手段が、かつての半数以下へと大幅に落ち込んだ出生数の回復である。人口増加により、国家消滅の危機を回避し、活気あふれる社会の実現へ。

第3子以降の出生に対し、国が1000万円の育児資金前渡し金を支給。

- ①間接的な施策だけでは大きな人口増に結びつかない、出生を促す直接的な施策が必要である。
- ②施行2年後から年間100万人の出生増を目指す。
- ③この施策を30年間続けることにより、50年後には人口2億人も期待できる。
- ④この施策による国の支出は年間10兆円程度を見込むが、人口増がもたらすメリットの方がはるかに大きい。
- ⑤ただし、実行するにあたっての様々なリスクや課題を国民全体で克服していく必要がある。



提言の実行により実現する未来

- ①本施策の施行により、人口増の期待感が広まり、2~3年後には経済効果を生み始め、究極の経済対策となる。
- ②20年間停滞し続けてきたGDPが増加に転じ、30年後には倍増の1000兆円に。
- ③税收増により、無借金で健全な国家運営が可能に。
- ④経済が活性化し、日経平均株価も最高値を更新。
- ⑤社会インフラの整備が進み、福祉も充実。
- ⑥国際社会における日本の存在感が高まる。

克服すべき課題

- ①年間10兆円にのぼる育児資金前渡し金の財源確保。
- ②女性の結婚年齢の上昇による出産適齢期間の減少、および高齢出産のリスクの回避。
- ③子どもを持つ女性が働くための制度・環境の整備。
- ④育児支援＝保育施設の充実、待機児童問題の解消など。
- ⑤世界の人口爆発とどう折り合いをつけるか。日本の国力に対する適正人口の算出。地球環境への配慮。
- ⑥人口増に対する国民・社会の理解と積極的支援。



株式会社ナガセ 代表取締役社長 永瀬 昭幸 (ながせ あきゆき)

1948年生まれ、東京大学卒業。76年株式会社ナガセを設立。大学受験予備校の「東進ハイスクール」「東進衛星予備校」を中核に、幼児・児童向け英語教室「東進こども英語塾」、大学生・社会人対象の「東進ビジネススクール」を展開。さらに中学受験の「四谷大塚」、生涯にわたる体育事業の「イトマンスイミングスクール」の社長・理事長も務め、幼児から社会人までを対象に30万人の生徒が通う、民間企業として最大規模の教育機関を築く。大学生などへの起業支援、高校生への米国大学留学支援、小、中、高校生の全国統一テストなども実施している。

一般社団法人 全国保育連盟は、 このような革新的な政策転換が必要だと思います!

理事長
ご挨拶

少子化がますます深刻化し、年々、人の生き方が急速に多様化しています。

「女性が輝く社会」「一億人総活躍時代」と社会が変わらなければ成し得ないスローガンが発表されます。その中において0歳から5歳までの子どもの育ち方・教育のあり方が問われています。

一般社団法人全国保育連盟は設立当初の理念である「子どもたちが日本の将来そのものである」との考えを再認識し、保育事業の環境整備のために全力を尽します。また、「全てが子どものために」を常に念頭に置いて、日本全国の保育園を応援できるような体制をつくり、子育て支援に全力で取り組み、子どもたちの健全育成の使命を果たします。



一般社団法人 全国保育連盟
理事長 古川 浩一郎

FAXにて参加お申込みされる方は、この用紙をご返送ください。

団体名 (法人名)	氏名 (参加代表者)	参加人数	人
〒			
ご住所			
TEL	FAX		
E-mail			

振込先

社)全国保育連盟 シャ)ゼンコクホイクレンメイ
三菱UFJ銀行(0005) 品川駅前支店(588)
普通預金 0387573

FAX

参加お申込み締切:2019年8月31日(土)
事務局直通 FAX:072-657-7853
※レターヘッドはご不要です。この1枚のみをご送信ください。